

B14

PA05-346
reference 4

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3036293号

(45)発行日 平成9年(1997)4月15日

(24)登録日 平成9年(1997)1月29日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 43/00			B 6 5 D 43/00	
			25/54	
			51/24	A
// B 6 5 D 85/50			85/50	A

評価書の請求 有 請求項の数 3 書面 (全 6 頁)

(21)出願番号 実願平8-11193

(22)出願日 平成8年(1996)9月27日

(73)実用新案権者 596104348

有限会社日医商事

青森県弘前市大字西大工町63番地 2

(72)考案者 岩淵 正夫

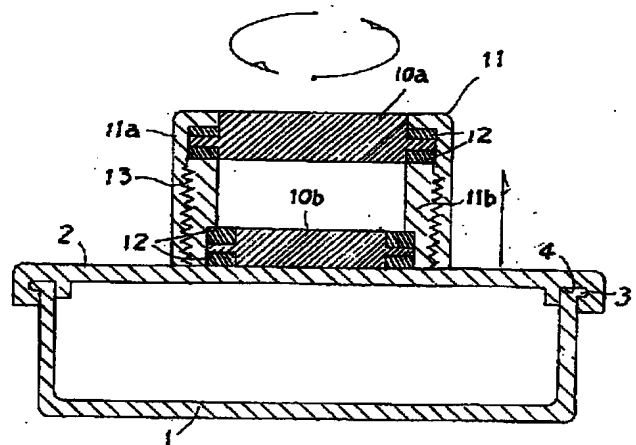
青森県弘前市大字西大工町63番地 2

(54)【考案の名称】 収納容器

(57)【要約】

【課題】 収納している物の状態を外部から容易に判断できるようにする。

【解決手段】 透明な上蓋2にレンズ10a, 10bが設けられた筒体11を設置し、レンズ10a, 10bを通して、その拡大作用によって収納されている物の状態を外部から判断する。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 容器本体と、この容器本体の開口部を閉鎖するための蓋体とからなる収納容器において、容器本体内部が透視できるように蓋体を透明材によって形成し、この蓋体に、容器本体に収納された物を外部から拡大して見ることができるように少なくとも 1 つのレンズを備えた筒体を設けたことを特徴とする収納容器。

【請求項 2】 容器本体と、この容器本体の開口部を閉鎖するための蓋体とからなる収納容器において、容器本体内部が透視できるように蓋体を透明材によって形成し、この蓋体に、容器本体に収納された物を外部から拡大して見ることができるように少なくとも 1 つのレンズを備えており、かつレンズを上下動することが可能な筒体を設けたことを特徴とする収納容器。

10

*

2

* 【請求項 3】 前記容器本体と蓋体とが円筒状をなし、少なくとも蓋体が透明材によって形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の収納容器。

【図面の簡単な説明】

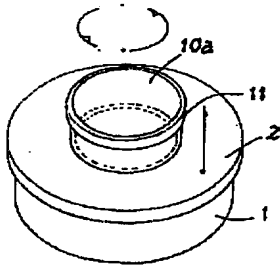
【図 1】 本考案の一実施形態を説明するための容器の斜視図である。

【図 2】 図 1 の容器の縦断面図である。

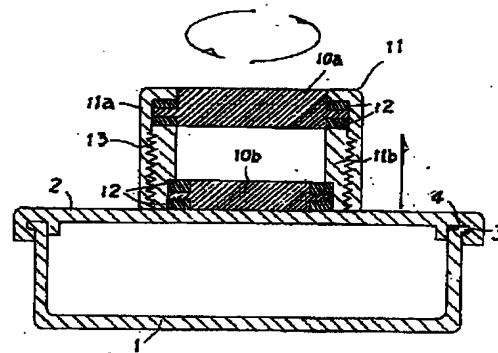
【符号の説明】

- 1 容器本体
- 2 上蓋
- 10 a, 10 b レンズ
- 11 筒体
- 11 a 外筒体
- 11 b 内筒体

【図 1】



【図 2】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、収納容器に係るものであり、特に、食品類を収納する容器に適用される収納容器に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来より、密閉状態にて食品類を収納することができる、例えばタッパウエア（商品名）等の容器が多く利用されている。これらの容器は、気密性がよいほど食品を長く保存することができ、通常、食品類を収納して冷蔵庫に入れられて保管されるものである。

【考案が解決しようとする課題】**【0003】**

しかしながら、前記容器に食品類を収納しても、内部で殺菌作用がなされていないのではないため、長期の保存では、当然、品質が低下したり、雑菌等が原因して腐食してしまうことがある。

【0004】

しかし、前記従来の容器では不透明でかつ着色されたプラスチックによって形成されているため、収納された食品類を外部から透視することができず、また透明の容器であっても、その透明性が優れていないと、内部の状態を見ることができず、また見えたとしても鮮明ではない。

【0005】

このように、従来の容器では、収納された食品類の保存状態の確認が外部から容易にできず、蓋を開いて見て、初めて腐食していることが分かり、異様な状態を直視してしまい、あるいは異臭を直接嗅ぐことにより、きわめて不快になることが多々あった。

【0006】

そこで、本考案においては、収納している物の状態を外部から容易に判断できるようにした収納容器を提供することを目的とする。

【0007】**【課題を解決するための手段】**

前記課題を目的を達成するため、本考案は、容器本体と、この容器本体の開口部を閉鎖するための蓋体とからなる収納容器において、容器本体内が透視できるように蓋体を透明材によって形成し、この蓋体に容器本体に収納された物を外部から拡大して見るように少なくとも1つのレンズを備えた筒体を設けたことを特徴とし、蓋体にある程度の透明性があれば、レンズの拡大作用によって、容器内に収納されている物の状態が鮮明に分かるようになる。

【0008】

また、本考案の収納容器は、容器本体と、この容器本体の開口部を閉鎖するための蓋体とからなる収納容器において、容器本体内が透視できるように蓋体を透明材によって形成し、この蓋体に、容器本体に収納された物を外部から拡大して見るように少なくとも1つのレンズを備えており、かつレンズを上下動することが可能な筒体を設けたことを特徴とし、レンズを上下動させて適当に焦点調整を行うことにより、レンズの拡大作用によって、容器内に収納されている物の状態がさらに鮮明に分かるようになる。

【0009】

また、本考案の収納容器は、前記容器本体と蓋体とが円筒状をなし、少なくとも蓋体が透明材によって形成されていることを特徴とし、この収納容器を冷蔵庫に収納すると他の容器との接触面が少なくなり、冷蔵庫の冷気の流通が良好になり、収納する食品類の保存性が向上する。

【0010】**【考案の実施の形態】**

以下、本考案の好適な実施形態を図面を参照して説明する。

【0011】

図1は本考案の一実施形態を説明するための容器の斜視図、図2は図1の容器の縦断面図であり、1は耐熱性ポリプロピレン製の容器本体、2はポリカーボネート製の上蓋であり、容器本体1の開口端の周囲は外側に突起部3が嵌着する受け溝4が形成されており、嵌着状態において容器本体1と上蓋2にて内部が気密

状態になるようにしてある。上蓋2は半透明性、透明性を呈するものである。

【0012】

10a, 10bは上下一対の硝子製のレンズ（凹レンズ）であり、プラスチック製の筒体11内にシリコンゴムのパッキング12によって保持されている。筒体11は上蓋2の外側に接合されている。

【0013】

筒体11は、回動可能に螺合13している外筒体11aと内筒体11bとからなり、外筒体11aの上部に一方のレンズ10aが保持され、内筒体11bの下部に他方のレンズ10bが保持されている。

【0014】

このような構成であるため、外筒体11aは回動させると上下動するため、2つのレンズ10a, 10bにおける焦点調整が行え、上蓋2が透明性が多少低くとも、レンズ10, 10の拡大作用によって、収納されている物の状態を外部から判断することができる。

【0015】

なお、容器としては容量が大きくとも容器本体1を上にし、前記上蓋2を下にして置いてもよいので、この場合には概念として透明な容器本体1を蓋体として考えて、前記筒体11を設けるようにすることも考えられる。

【0016】

前記容器本体1と上蓋2とはほぼ円筒状をなしているが、このようにすることによって外側が曲面となるので、この容器を冷蔵庫に入れた場合に、外側が平坦面であるよりも他の容器あるいは収納物との接触面が小さくなり、冷気が外周囲面に行き渡り、保冷効果に優れたものになる。

【0017】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案の収納容器によれば、レンズの拡大作用によって、容器内に収納されている物の状態が鮮明に分かるようになる。したがって、食品類の保存状態を容易に確認することができる。

【0018】

また、レンズの焦点調整が行えるようにすることによって、さらに鮮明に収納されている物の状態の視認，確認が行える。

【0019】

また、容器本体を円筒状にすることによって、容器外側において冷蔵庫の冷気の流通が良好になり、収納する食品類の保存性が向上する。